

2023年夏季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：4年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

私は GSC プログラムに所属していて、本来は 1 年の長期留学したかったのですが、それが叶わなかった為、今回就活を終えた 4 年の夏に 1 か月留学しました。今年秋の TCF で B2 取得を目指しています。

留学の感想としては、本当に参加して良かったと感じています。理由としては、やはり現地でしか体験できない勉強を行えたからです。授業は、圧倒的にリスニングとスピーキングの機会が多く取られていて大変ですが、その分力になるし、その方が生きたフランス語だと感じました。また、他の生徒のフランス語を聞き取るのがかなり難しかったです。それぞれ母国語のアクセントが若干含まれていたり、読み方が違っていたり、表現の仕方が日本人とは違っていたからです。なので、発音の重要性に気づきました。

また、印象に残っているのはホームステイです。私はサウジアラビアの 16 歳の留学生も一緒に暮らしていましたがイスラム教だったので、色々話を聞いて知らなかった文化を知る機会になりました。また、夕食後に皆で一緒にテレビを見ました。そこで距離が縮まったように思います。ホストファザーにも、君は例外だと言われ、なぜか聞いたところ、多くの留学生が食事以外の時間を自分の部屋で過ごしていて一緒に過ごす時間が少なかったから、と言っていました。時間がある時には周辺に車で連れていってくれたり、家族のように可愛がっていただいて、ホストファミリーと過ごす時間が大好きでした。最終日にプレゼントもいただいた事も思い出深いです。



留学で学んだことは、学校では習わない日常表現が大きいと思います。学校では社会的なボキャブラリーを学びますが、家ではさりげない表現を学びました。例えば、日本語の「よっこいしょ」にあたる表現など、日常的なフレーズはフランス人と一緒に過ごしたからこそ学べたと感じています。

また、留学で成長した点として個人的に感じていることは、いい意味で人の目線を気にしなくなったように思います。フランスは想像以上に様々な国の人がいました。髪の毛の色、服、肌の色、体の大きさなど皆違って驚きました。日本だと日本人が多いですし、同じような服、スタイルの人が多く、少数派は変わっていると見られがちです。でもフランスではアジア人の自分が少数派になるので周りからよく見られ、最初はそれを気にしていましたが、徐々に違いが個性だと気づいて気にしないようになりました。すると、かなり生きやすくなったように思います。そういった点で、フランスは暮らしやすいと思いました。

今回の留学でさらに海外への関心が高まり、他の国も訪れたいと感じています。語学については、秋の TCF 試験で B2 がとれるように勉強を続けます。また、ボキャブラリーの不足が問題点だと実感したので、フランス語の文章をできるだけ読む勉強を行おうと考えています。

